



# 建築物総合環境計画概要書 新築

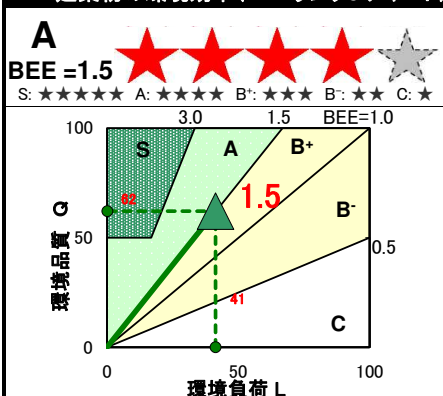
■使用評価マニュアル:「CASBEE大阪みらい 新築」2018年版 (v.1.2.1) ■使用評価ソフト:「CASBEE大阪みらい 新築」2018年版 (v.1.2)

## 1-1 建物概要

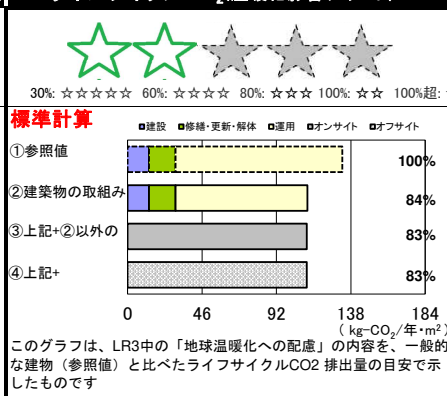
建物名称	大阪広域協組先端技術研究開発プロジェクト研修棟		
建設地	住之江区南港北1丁目		
建築用途	事務所		
建築主			
設計者			
敷地面積	13,580.30	m <sup>2</sup>	
建築面積	2,646.87	m <sup>2</sup>	
延床面積	11,501.22	m <sup>2</sup>	
構造/階数	RC造	/	地上4階、地下1階
完了年(予定)	2025年3月		

## 1-2 外観

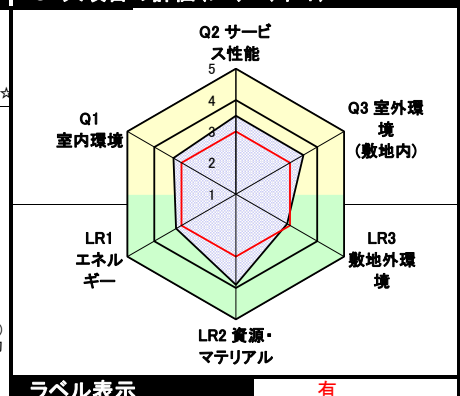
## 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



## 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

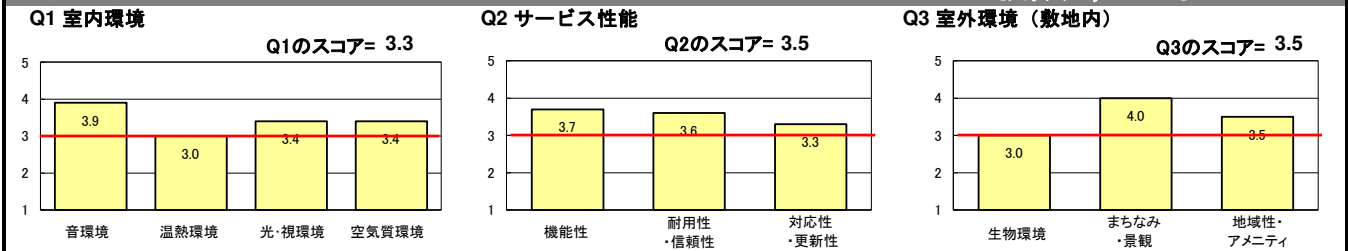


## 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

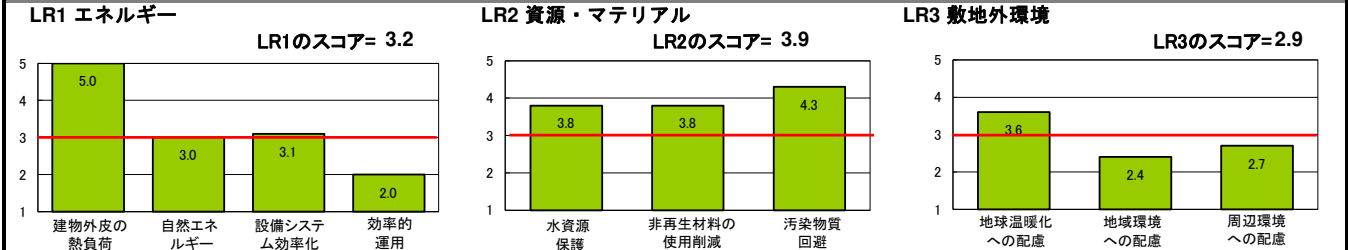


## 2-4 中項目の評価(バーチャート)

### Q 環境品質



### LR 環境負荷低減性



## 3 設計上の配慮事項

<b>総合</b> 生コンクリートに関する先端技術開発を行う施設。主に社内研修室や執務室など社員がコミュニケーションを図ることで技術力を高める室から構成される。周辺敷地にはまだ未整備の場所もあるが、周辺既存建築物と調和した違和感のないデザインとすることで、今後のまちなみ形成の基準となるように計画している。		<b>その他</b> 特になし。
<b>Q1 室内環境</b> 執務室や研修室はタイルカーペットを採用。天井についてはロックウール吸音板を多く使用している。共用部はガラスカーテンウォールを採用し自然採光を図った。また、居室はコンクリートのルーバーを取り付けることで自然採光と日射抑制を図った。	<b>Q2 サービス性能</b> 共用部、及び執務スペースの一部に外部に面した開放的なリフレッシュスペースを設けている。階高は1階を7.2m、2階以上を4.5m確保。照明はLED照明を採用し長寿命化を図る。東西コア周りに更新性を考慮し2ルート確保する。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 周辺の街並みのボリューム感が大きい地域なのでボリュームの分節を行った。また、敷地外周には高木を植えまたは既存樹を残し街路樹と呼応する歩行空間をつくる。
<b>LR1 エネルギー</b> 太陽光発電を設置している。外壁へは吹付硬質ウレタンフォーム40mmを設ける。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 節水器具を使用する。砕石には再生クラッシュランを採用する。	<b>LR3 敷地外環境</b> 敷地への出入りを2か所確保し実験車両と来客車両を南北に分けることで敷地周辺での交通渋滞抑制を図る。また屋上は一部、蒸散効果の期待できる緑化を計画する。

# 建築物環境性能表示 結果〔重点評価〕

総合評価BEE = 1.5

ラベル表示



環境性能	評価点
(1)CO2削減	4.0
CO2削減に配慮した環境性能	概要記入欄
LR3/ 1 / /	地球温暖化への配慮 3.6 高炉セメントの採用
配慮事項	建物杭に高炉セメントを採用

環境性能	評価点
(2)みどり・ヒートアイランド対策	3.0
みどり・ヒートアイランド対策に配慮した環境性能	概要記入欄
Q3 / 1 / /	生物環境の保全と創出 3.0 地区計画に応じた緑地の確保
Q3 / 3 /3.2/	敷地内温熱環境の向上 3.0 ピロティの確保や屋上緑化の採用
LR3/ 2 /2.2/	温熱環境悪化の改善 2.0
配慮事項	道路境界への既存緑地を活かした植栽を計画。建物では奥行き深いピロティを計画。

環境性能	評価点
(3)建物の断熱性	5.0
CO2削減に配慮した環境性能	概要記入欄
LR1/ 1 / /	建物の熱負荷抑制 5.0 断熱の確保
配慮事項	窓面積を抑えて壁に断熱材を吹付硬質ウレタンフォームt=40を用いることで高断熱の建物としている。

環境性能	評価点
(4)エネルギー削減	3.0
CO2削減に配慮した環境性能	概要記入欄
LR1/ 3 / /	設備システムの高効率化 3.1 エネルギー監視
配慮事項	中央監視による用途別エネルギー計測、モニタリング対応

## 省エネルギー基準計算結果

基準  
適合状況

適合

※ 外皮性能については、住宅部分が等級4(相当)以上、非住宅部分が1.0以下であること  
 ※ 一次エネルギー消費量については、建物全体のBEI、BEImが1.0以下であること(新築時)  
 (基準適合義務がある部分については、その部分のBEI、BEImが1.0以下であること)

外皮性能	住宅部分 (品確法等級) 対象外 (相当)	非住宅部分[BPI][BPI <sub>m</sub> ] 0.66
一次エネルギー消費量	建物全体[BEI][BEI <sub>m</sub> ] 0.79	住宅部分[BEI] - 非住宅部分[BEI][BEI <sub>m</sub> ] 0.79